



クローズ
CLOSE UP
アップ
話題の人に迫る



▲青い空、ふわふわしたドーム、子どもたちの表情など、4枚の写真をパネルに貼った組み写真。左は写真部顧問の田村繁美教諭

高校から写真を始めて2年半
全国高等学校総合文化祭で日本一

この夏、京都市で行われた第30回全国高等学校総合文化祭の写真部門で、永田典子さんが最優秀賞を受賞し、日本一に輝いた。

この大会には、各都道府県の予選を勝ち抜いた307作品が出品。「何か賞が取れれば……」そんな思いで会場入りした永田さんは、事前に情報が入った写真部顧問の田村繁美教諭から「おめでとう。最優秀賞だよ」と伝えられ、いきなり喜びの頂点に達した。

「最優秀賞なんて本当に信じられませんでした。作品の展示会場に行き、この目で確認するのと同じく、実感も込み上げてきました」と笑顔を見せる。

最優秀賞に選ばれた作品「フアードーム」は、公園で遊ぶ子どもたちを撮影した組み写真。

子どもたちの元気な姿、かわいらしい笑顔を撮りたいと県立みよし公園へ行き、ファインダーを覗くと、予想以上の楽しい構図に感動。納得するまで撮影したいと3回も足を運んだ。「いきなり子どもたちにレンズを向けると、カメラを意識して自然な表情がでないの、子どもと一緒に遊び、仲良くなつて、自然な表情をとらえました。また、迫力のある写真を撮るため、

「誰にも負けたくない、一番いい写真を撮りたい」という強い気持ちと、田村先生の指導、他の部員のおかげです」と受賞の喜びを語る。

高校から写真を始めて2年半、向上心と強い気持ちが日本一へと導いた。

8月25日には、県教育委員会が全国規模の各種大会で優秀な成績を修めた児童・生徒を対象に表彰するメイプル賞を受賞。

永田さんは写真部でただ一人の3年生。田村教諭は、「一人で自分を向上させることは難しいこと、いっぱい苦労もあったと思う。永田の良さは辛抱ができる、弱音をはかない、素直に指導を受け入れて自分なりに実践できること。この素直な心が、驚くスピードで技術を向上させた。実力的にも全国トップクラス」と評価する。



▲左から三上彩香さん、松下栄作さん、塩田充芳さん、前原喜代志さん、谷本寛さん。自らの鍛錬とともに子どもたちの育成に力を注ぐ。

和道流庄原支部がチームワークで
和道流空手道連盟全国大会を制す

第42回和道流空手道連盟全国大会が8月19、20日の2日間、東京武道館で行われ、組手男子団体戦一般の部で、本市から出場した庄原Aチームが優勝、庄原Bチームが第3位、また、組手個人戦高校生男子の部で矢吹伸也くん(庄原実業高等学校3年生)が優勝に輝いた。

この大会は空手道4大流派の1つである和道流の全国大会。一般の部は、大学空手道部OBなどの強豪が出場し、勝つことは難しい。「優勝して来い」とは言ったが、本当に優勝するとは思わなかった」という指導者の谷本寛さん。予想外の結果に驚いている。

団体戦は3人1チーム。昨年までは1チームの参加だったが、今年には市出身者で県外在住者をメンバーに加え、2チームで参加した。どちらのチームも勝てるよう力関係をバランスよく編成し、「決勝戦で戦おう」と目標を定めた。

団体戦には11チームが出場。庄原Aチームは昨年イギリスで開催された第7回和道流空手道連盟世界大会で3位になった友貞太さんを中心にまとまり決勝に進出。庄原Bチームは準決勝で悔しい負けを喫したが、3位決定戦を制し3位入賞。「あとは庄原Aチームが優勝するだけ」と庄原Bチームも必死の声援を送り、初優勝を飾った。チームワークが鍵を握る団体戦で、大会まで一緒に練習できなかったことも、小さい頃から一緒に汗を流してきたチームには関係なかった。「勝因は庄原Bチームを含めたチームワーク。声援が励みになった」と塩田充芳さんは振り返る。

「来年は庄原市から3チームがエントリーし、優勝庄原、準優勝庄原、第3位庄原と『庄原』の名前を武道館に響かせたい」と出場メンバーは夢を描く。

また、矢吹伸也くんが出場した高校男子の部は、17人が出場。「成績のことは一切考えず、目の前の試合を勝つことだけを考えていました。ただ、準決勝に勝ち上がった時、初めて優勝を意識した」と振り返る矢吹くん。普段はカウンター狙いの戦法も、この日は自分から手を出す積極策で、得意の中段突きに加え、ポイントの高い蹴りがよく決まった。「優勝したのは先輩方のアドバイスのおかげ。来年は一般の部で先輩の皆さんと一緒に勝ち上がりたい」と抱負を語った。

大学で空手道部に在籍していた谷本さんは昭和57年に「和道流庄原支部」を立ち上げ、「庄原市空手道スポーツ少年団」「庄原中学校空手道部」の3つの団体を指導。庄原中学校は11年連続で全国大会に出場している。

成績

- 組手男子団体戦一般の部 優勝
庄原A(塩田充芳、矢吹祐次、友貞 太)
- 第3位
庄原B(谷本 晃、松下栄作、前原喜代志)
- 組手個人戦高校生男子の部 優勝
矢吹伸也

最近では、谷本さんたちが指導した子どもたちが社会人になって、子どもたちが育成するというサイクルができつつある。「後継者を育成し、市内でもっと空手を普及させたい。また、空手を通じて庄原市を全国に発信させたい」と目標を語る。



▲和道流庄原支部は小学生から一般まで34人が在籍。週3回庄原市総合体育館で練習する。基本練習を繰り返し、選手個々の自主性を大切にしている。

「来年は庄原市から3チームがエントリーし、優勝庄原、準優勝庄原、第3位庄原と『庄原』の名前を武道館に響かせたい」と出場メンバーは夢を描く。

また、矢吹伸也くんが出場した高校男子の部は、17人が出場。「成績のことは一切考えず、目の前の試合を勝つことだけを考えていました。ただ、準決勝に勝ち上がった時、初めて優勝を意識した」と振り返る矢吹くん。普段はカウンター狙いの戦法も、この日は自分から手を出す積極策で、得意の中段突きに加え、ポイントの高い蹴りがよく決まった。「優勝したのは先輩方のアドバイスのおかげ。来年は一般の部で先輩の皆さんと一緒に勝ち上がりたい」と抱負を語った。



▲矢吹伸也くん 広島市内へ進学後も空手を続けるという。